

## 第2回大山入山料徴収社会実験実行委員会

## 議事要旨

1. 日時：令和元年12月23日（月）10：00～12：00

2. 場所：米子合同庁舎4階 大会議室

3. 出席者：

（委員・敬称略）

## 【関係機関・団体】

甲斐 晴久（林野庁 鳥取森林管理署 主任事務管理官）

山根 均（大山旅館組合 組合長）

足立 敏雄（一般社団法人 大山観光局 代表理事）

矢田貝 繁明（一般社団法人 大山観光局 大山自然歴史館館長）

堀田 利明（一般財団法人 自然公園財団鳥取支部 所長）

三原 勝弘（一般財団法人 自然公園財団鳥取支部 副所長）

上野 紀代子（一般社団法人 大山ガイドクラブ 理事）

北浦 宏志（中国山岳ガイド協会 会長）

亀尾 崇（鳥取県山岳・スポーツクライミング協会 副会長）

松塚 明則（鳥取県山岳・スポーツクライミング協会 理事（自然保護委員長））

井田 武夫（鳥取県勤労者山岳会 会長）

池田 泰二（鳥取県勤労者山岳会 米子勤労者山岳会長）

## 【外部有識者等】

柘植 隆宏（甲南大学経済学部 教授）

（事務局）

辻田 香織（環境省大山隠岐国立公園管理事務所 所長）

中山 良太（環境省大山隠岐国立公園管理事務所 国立公園保護管理企画官）

浦田 悦雄（鳥取県緑豊かな自然課 課長補佐）

奥村 哲明（鳥取県緑豊かな自然課 係長）

後藤田 拓也（鳥取県西部総合事務所生活安全課 課長）

田村 晴久（鳥取県西部総合事務所生活安全課 係長）

徳永 貴（大山町観光課 課長）

西村 済（大山町観光課 主任）

寺崎 竜雄（公益財団法人日本交通公社 理事／観光地域部長）

伊豆 菜津美（公益財団法人日本交通公社 副主任研究員）

#### 4. 議事概要

- ・ 山頂が工事していることもあり、当初は多くの苦情が寄せられるのではないかと不安が大きかったが、実際には多くの登山者に快く調査にご協力いただくことができた。全員とは言えないがかなりの登山者に理解いただけていた実感がある。
- ・ トイレや登山道については、費用が無いと維持できないということが伝われば、協力したいという登山者はさらに増えると思う。協力金はあくまでも寄付行為であり、積極的に参加していただくための働き掛けを常にしないといけない。
- ・ 大山は気軽に登れる山であるがために、山に対する知識が少ない登山者も多い。トイレチップや入山協力金を導入する際には、山の維持管理に費用が掛かることも含めていかに周知していくかが大きな課題になるだろう。
- ・ 社会実験を実施したこと、また集まったお金は何に使ったかを登山口に掲示するなどして、できるだけ早く周知するべきである。
- ・ 現在は近郊からの登山者が多いが、遠方やインバウンドの方も増えてきたとすると、一層受益者負担の重要性が増すだろう。整備に掛かる費用と登山者数から、大体1人当たり必要な経費がどのぐらいかを示し、現地の看板だけではなく、メディアやSNSなどの広報手段を使って登山者に理解していただく必要がある。
- ・ 維持管理にかかる費用について説明があったが、なかなか数字だけでは伝わらない。写真などを用いて、実際に作業を行っている姿をホームページなどでアピールをしたほうが数字だけ公表するよりは理解度が高まるのではないか。
- ・ このような社会実験を行う際には、主体の本気度を示す必要がある。今回は夏山登山道を中心に実施しているが、行者コースでは実施していない。夏山登山道のみでデータを取るのは、いい加減な調査だと思われる。募金箱で対応するなどして、回収場所を増やすことを検討したほうがよい。
- ・ ユートピアに至る登山道は、あまり整備されているわけではないので、この道を使う登山者からもお金を取るかどうかは検討が必要である。
- ・ アンケートの回答の中に、回数券が欲しいという意見があったが、何回も通るのであればその分木道等を傷めるので、支払うのが当然だという考え方もあるだろうし、あらかじめ一定の額を支払って無制限に登られるような制度を検討してもよいかもしれない。
- ・ 金額については、必ずしも定額にする必要はないと思う。今後登山道が傷み始めてさらに経費がかかるようになれば、その際に定額にするのか考えればよい。金額や徴収場所の設定については、最初から100点の状態を作ることには出来ない。必ず漏れはあるので、進めながら徐々に改善していけばよい。まずは体制作りが必要。
- ・ 大山の保全に係る費用を駐車場で徴収して、観光客に負担させる必要はない。観光客が大山を傷めているとは思わない。
- ・ 大山では、小学生の学校登山がある。環境教育の一面もあるので子どもたちへの対応については配慮が必要である。
- ・ 制度の導入に対する賛成や反対の意見だけで方針を考えるのではなく、総合的に自然のことを考えていくことが重要である。